

令和 6 年 7 月 12 日現在

機関番号：35507

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K12484

研究課題名（和文）CLILの視点から実技教科を生かした小学校英語指導のモデル開発

研究課題名（英文）Developing a model for teaching English in primary school using practical subjects from a CLIL perspective

研究代表者

二五 義博（NIGO, Yoshihiro）

山口学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：60648658

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、実技教科内容を生かす小学校英語教育を行うことが、児童の英語学習への動機づけや、将来に役立つ実用的なコミュニケーション能力育成につながることを理論的・実践的に示した。具体的には、イタリア、フィンランドやオーストリアのCLILの実践事例を参考にしながら指導案を作成し、日本において体育、家庭科や図画工作の内容を活用した英語の指導を小学生に対して行った。児童の反応については、CLIL（内容言語統合型学習）とMI（多重知能）の視点から授業分析し、実技教科をどのように取り入れると効果的なのかを考えながら、新しい英語指導法や教材のモデル開発を試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、イタリア、フィンランドやオーストリアの最新のCLIL授業の観察に基づいている点、CLIL研究であまり注目されていなかった実技教科内容（体育・家庭・図画工作・音楽）を生かした小学校の英語指導法や教材のモデル開発を試みた点、MI（多重知能）を活用する子どもの得意・不得意の個性を重視した個別最適な小学校英語教育を提唱している点などで学術的意義がある。また、予期していない成果ではあったが、明治時代や昭和初期の時代の小学校用英語国定教科書ですでに教科横断的な英語学習が行われていることを発見し、日本の古き良き小学校英語教育にも目を向けるべきとの問題提起は社会的意義があると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study theoretically and practically showed that teaching primary schools English using the content of practical subjects can motivate pupils to learn English and help them to develop practical communication skills that will be useful in the future. Specifically, an instructional plan was prepared with reference to CLIL practices in Italy, Finland and Austria, and English language instruction using the content of physical education, home economics and arts and crafts was conducted for primary schools students in Japan. Regarding the children's responses, we analyzed the lessons from the perspective of CLIL (content and language integrated learning) and MI (multiple intelligences) and tried to develop a model for new English teaching methods and materials while considering how effective it would be to incorporate the practical subjects.

研究分野：小学校英語教育

キーワード：CLIL（内容言語統合型学習） 教科横断的指導 多重知能（MI）理論 コミュニケーション能力の育成
小学校英語教育 海外の外国語教育 実技教科

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究課題の申請時においては、2020年度からの小学校英語の教科化に伴い、日本での小学校英語教育が本格的にスタートするという時期であったが、小学生に対してどのような英語教育を行うのが効果的なのかをめぐって、様々な視点から活発に議論がかわされていた。そのような中、教科横断的な視点では、学習指導要領において英語と他教科との連携は強調されているものの、特に実技教科(体育・家庭・図画工作・音楽)の内容を取り入れるという点では、どういった指導法でどんな教材を使えば良いのかは研究が十分にはなされておらず、未だ明確な答えは出ていないという背景があった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、「海外や日本の CLIL(内容言語統合型学習)の事例を参考にしながら、実技教科を中心とする他教科内容を生かす小学校英語教育を行うことが、児童の英語学習への動機づけや、将来に役立つ実用的なコミュニケーション能力育成につながることを理論的・実践的に示すこと」である。さらには、「日本の普通の公立小学校の教育現場の実状に合う形で、実技教科を活用した新しい英語指導法や教材のモデル開発を行い、これからの日本の小学校英語教育の発展に貢献し得るものになりたい」というのが、本研究課題の申請時における当初の研究目的であった。

3. 研究の方法

本研究課題の研究方法としては、理論と実践の両面から、主に小学校レベルで効果的な CLIL(内容言語統合型学習)に関する考察を行った。まず、理論面では、特に CLIL についての著書や研究論文がヨーロッパを中心に数多く出されているため、それらの収集および文献研究を行い、最新の理論的背景の整理を研究の第一段階として遂行した。そこで、本研究は、イマ ジョンなどとは違う側面を強調しながら、CLIL の4つの軸である「内容」「言語」「思考」「協学/文化」と MI(多重知能)の視点から、他教科内容を効果的に利用した小学校での英語学習を模索することとした。

次に、実践面では、理論面での文献研究と並行して、海外で行われている CLIL の実地調査を行った。研究の途中でコロナ禍もあり計画通りにはいかなかったが、ヨーロッパにおいて小学校レベルで古くから CLIL が浸透している、イタリア、フィンランドやオーストリアにて実技教科内容も含む CLIL の授業観察をすることができた。現地調査後には、CLIL の4つの軸と MI の「個性」の視点から詳細な授業分析を行い、日本の小学校にも取り入れられる点を探りながら仮説モデルの作成を試みた。

最終段階では、海外現地調査の仮説モデルを参考にしながら、小学校教員の協力の下に作成した指導案に基づいて、日本の小学校にていくつかの CLIL 授業を実験的に行った。授業後には、児童の反応も探るためのアンケート調査を実施した。さらには、実験的授業やアンケート調査結果の分析を CLIL と MI の視点から行い、そこから得られた効果や課題点を整理しながら、最終的には実技教科を生かす指導法や教材のモデル開発を目指した。

4. 研究成果

ここでは、海外現地調査の結果と、日本において小学校教員との連携のもとに開発した教材に基づく CLIL 授業の実践結果に焦点を当てて、本研究課題の成果を報告したい。

(1) 海外現地調査の結果

イタリアの小学校における CLIL 授業の観察

図画工作 CLIL の事例として、理想的な家の模型作り(工作の側面)では、まずは家の設計図の作成を行い、家の外面だけでなく、内側の各部屋の細部にわたるまで再現することを試みた。また、3D画像も用いた科学的な建築の手法で模型作りを行い、家の材質や色彩にもこだわった。理想的な家のポスター作り(図画の側面)では、小学校5年生が主導して作成し、中学2年生にできたものを英語で説明し、中学2年生が改善のためのアドバイスを行った。これは、理想的な家のお絵かきをし、その下に英語での説明を加えるといった図画の内容と英語ライティングの統合的学習である。次に、理想的な家の発表会では、グループごとに自分たちが半年かけて作った模型を披露しながら、その家の説明に関して英語(一部イタリア語)を用いて行った。説明の内容は、その家を理想的と考える理由、古代ギリシャやローマの家を参考とした部分、各部屋の機能や配置、部屋の中の家具や装飾品、家の材質や色彩などである。これはまさに、内容と言語の統合的活動である。最後に、理想的な家のクイズ大会では、自分たちが作った家の模型に関係して、異学年間で英語によるクイズを出し合った。クイズの内容は、社会科や図画工作の教科横断的内容の知識獲得につながるものである。合計10題の出題で、最初の5題は小学5年生、残りの5題は中学2年生の作成によるものであった。この活動には、思考や協学の要素が取り入れられている。

フィンランドの小学校における CLIL 授業の観察

2022年8月、フィンランド・セイナヨキの基礎教育学校(9年一貫性)を訪問してCLIL授業を観察したが、ここでは日本の小学校の年齢層への示唆となる、3年生の図画工作、5年生の音楽、そして7年生の体育を対象とする。以下は、授業での配布資料、写真や一部ビデオも利用しながら、これら授業観察の分析結果に基づく記録の報告である。

図画工作 CLIL (小学校3年生) について

ほぼ英語で指示(フィンランド語も使用)	4~5人で1グループ
英語の指示に従って描く(Rosebay Flower)	教員は机間巡視しながらほめて回る
教員がPC画面で花を映し出ししながら、児童は元の紙に描く	
教員が画面上で描く例を示す(ICTの活用)	

音楽 CLIL (小学校5年生) について

22人(二人ずつの席)	ほぼ英語での指示をしながら歌う
歌い方のポイントなどを英語で指示(児童はどのようにしてうまく歌えるか考える)	
歌いながら、体を動かしながら、英語を学ぶという3つのことを同時にやっている	

体育 CLIL (7年生) について

Warm-up(準備運動)において英語で指示し、子どもたちは体を動かしながら英語を使用 技術的な見本などでICTの積極的な活用 (ホッケー準備運動の科学的な根拠に基づく動きの研究を行っている)
Running backwards, skipping, skipping and 8 shapeのような英語の指示により、生徒たちは正確に8の字を描くように考えながら動く必要(動作がうまく行かなければ、英語でコミュニケーションをとって解決する、コミュニケーションの必然性が生じる)
グループごとに個別最適な異なる準備運動

授業観察の結果、様々な科目のCLIL授業の中で、身体運動的知能(思考を伴う動作)、視覚・空間的知能(PCでの視覚化、花の作画)、博物的知能(植物の分類)、音楽的知能(上手な歌の歌い方)、内省的知能(個別の準備運動)等の活用によって、思考を伴いながら、他教科の難解な内容でも児童が理解しやすくなるよう、またオーセンティックな場面でコミュニケーション能力育成を図る工夫がされていることが分かった。

オーストリアの小学校における CLIL 授業の観察

2023年9月、オーストリアのウィーンやグラーツの公立小学校を訪問して様々な科目のCLIL授業を観察してきたが、ここではその中でも図画工作や音楽などの実技科目のCLILを中心に取上げ、小学校低学年の児童を主な研究対象とする。オーストリアにおける小学校の低学年段階のCLILは、その多くが実技教科の中で行われており、母語も用いながら無理ない程度に英語が導入され、子どもの個性を重視する形で行われているのが特徴的である。本研究では、4C(内容・言語・思考・協学/文化)によるCLIL授業の分析とともに、CLILに関連する多重知能の視点から、日本に示唆できる点を探ることとした。

授業観察の結果、身体運動的知能(思考を伴うジェスチャーやダンス)、視覚・空間的知能(天気や虹のお絵かき、ドットペインティング)、そして音楽的知能(上手な歌の歌い方)などの様々な知能の活用によって児童が授業内容を理解しやすくなるよう工夫され、またオーセンティックな場面でコミュニケーション能力育成を図る活動が多く取り入れられていた。さらには、図画工作や音楽などの実技教科の内容と言語を統合的に学ぶことにより、英語の不得意な児童にとっても英語を楽しみながら使用できる場面が数多く設定され、CLILの授業に興味・関心をもって取り組んでいた。

(2) CLIL 授業の実践結果

体育 CLIL の実践

本研究の対象者は、広島県の小学校3年生2クラス59名と4年生2クラス59名の計118名である。研究の手順としては、まず、体育と英語の専門家が協力する形で、CLILの4つの軸に基づく教材を作成し、授業案をデザインした。とりわけ、従来の日本におけるCLILの実践研究では、英語活動の中に一部だけ簡単な他教科内容を取り入れるという型が多かったせいもあり、学習内容がその学年のレベルに合っていないなど、内容面での精査が十分でない場合が多かった。そこで本研究は内容面を重視し、同学年の体育学習指導要領の目標に基づき、子どもの知的発達段階に合う活動を様々に工夫した。具体的には、体育科の3つの到達目標を設定した。それは、「体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体の変化に気付いたり、みんなで関わり合ったりすること」(知識・技能)、「自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること」(思考力・判断力・表現力)、「運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること」(学びに向かう人間性)である。一方、言語面では、本授業は体育であるため全

て英語で行ったわけではないが、教室外のオーセンティックな場面であるべく多くの英語が使用できるよう試みた。例えば、体づくり運動の各場面で用いる語彙リストを作成したり、ワークシートなどにより子ども同士が英語でコミュニケーションを取りやすくしたりした。次に、授業実践の後には学習者の反応を見るため、選択式（4点法）と自由記述式を併用したアンケート調査を実施した。

研究結果、選択式（4点法）においては、内容への動機づけで児童の95%（4年生）・98%（3年生）、言語面の習得（聞く・話す・読む）では76%～93%（4年生）・66%～93%（3年生）、思考の面では95%（4年生）・97%（3年生）、協学の面では98%（4年生）・97%（3年生）が肯定的な反応を示した。ここからは、CLILの指標である「内容」と「言語」の両面に加え、「思考」や「協学」の面でも一定の効果が見られる。また、自由記述式からは、肯定的意見として、「体育と英語が同時に学べて楽しかった」「体育をやりながら英語も自然に身についた」など二刀流のプラス面を指摘する声や、「たくさんの体を使った動きを工夫することができた」「協力してどういった英語を使うかを考えることができました」など思考や協学の面での言及もあった。否定的意見としては、「英語で指示を出されてなんて言ったか分からなかった」や「英語で協力するのは、英語の意味も理解しないといけなから案外難しい」といった英語による内容理解の難しさを指摘する声がいくつかあった。今後の課題としては、第1には、体育の内容のレベルを下げないようにどの程度の英語を導入すべきなのかを検討すること、第2には、英語が理解できない場合の体を利用した足場かけ、例えばGardner（2006）が提唱した多重知能（MI）理論などの活用による、体育CLIL授業のさらなる工夫が必要である。

家庭科CLILの実践

本研究では、小学校の高学年（6年生）を対象とした。本研究の目的は家庭科の教科内容をコアとしながら、CLILの4Cの視点からの分析により、調理実習（野菜いため作り）の内容を英語で学ぶことが、内容への動機づけ、コミュニケーション能力育成、思考や協同学習の視点でいかなる効果があるかを探ることである。「食生活」の内容を取り上げた理由は、児童に受け身ではなく主体的に思考させながら取り組ませるには、いろいろな材料や調味料、調理道具等の具体物が用意でき、「ゆでる」「いためる」等動作化しながらコミュニケーションが取れることが家庭科CLILの実践として重要と考えたことにある。小学校段階における英語の語彙を考えた際に、野菜の名前や「切る」「洗う」等の表現は生活の中でも聞き慣れていると思われるが、調味料や調理道具等の表現はほとんど聞いたことがないと考えられる。しかし、その英語表現を知らなくても具体物を示したり動作化したりすることで理解を促すことができ、調理の基礎的な知識及び技能だけでなく、その英語表現も新たに獲得させることができる。また、誰かのために調理をすることで、相手の好みや状況を考え、相手が喜ぶように工夫しようと思える場面が設定できることも、「食生活」の内容を取り上げた一つの理由である。相手の好みを尋ねることで、相手に適した材料選びや切り方、いため方などの工夫ができると考えられる。そのため、「食生活」の内容は思考の面でも効果があると判断している。

研究結果、選択式（4点法）においては、内容への動機づけと思考の面で児童の100%、協学の面では98%が肯定的な反応を示した。言語面での習得では、「聞く」と「話す」は90%、英語の文章を「読む」は87%の児童が肯定的反応だったが、英語の文章を「書く」では23%が否定的反応を示し、ワークシートへの書き込みは日本語で行った児童も多くいた。また、自由記述式からは、「英語の勉強にも料理の勉強にもなって良かった」「同時に2つの勉強ができるので効率が良い」など二刀流のプラス面を指摘する声が多い一方で、「調理道具の英語は難しい」や「文章で何かを書くのは難しい」などの指摘もあり、今後の家庭科CLILでは、専門用語や文例の提示の際の足場かけをさらに工夫する必要がある。

(3) 予期していなかった研究成果と今後の展望

日本の過去における小学校英語教育の実践例を調査していく中で、イタリア、フィンランドやオーストリアなどのヨーロッパの国々だけでCLILは行われていたのではなく、日本でもかなり昔から教科内容と言語を統合するような指導が小学校で行われていたことが分かった。例えば、明治時代や昭和初期に日本全国で用いられていた小学校用国定英語教科書の分析をすると、当時の小学生は算数や理科、社会に加え、図画や体育、家庭科の教科内容と共に教科横断的に英語を学んでいたという事実が判明した。本研究のテーマである実技教科に限ると、図画は「色彩」、体育は「ボールゲーム」、家庭科は「食品」を通して英語を学んでいたようであった。

今後の展望としては、CLILの先進的とされるヨーロッパの授業例から学ぶだけではなく、日本における古き良きCLILの実践例も参考にしながら、今後の教科横断的な小学校英語教育はどう指導していけば効果的なのかを引き続き考察していきたい。加えて、現在研究が進行中ではあるが、図画工作や音楽の実践例も十分にCLILやMI（多重知能）の視点からの検証をし、小学校における実技教科（体育・家庭・図画工作・音楽）全体を生かす英語指導法や教材のモデル開発を目指していきたいと考えている。

<引用文献>

Gardner, H. (2006). *Multiple intelligences: New Horizons*. New York: Basic Books.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 二五義博、古賀悠里江	4. 巻 第15号
2. 論文標題 小学校における家庭科CLILのあり方について 高学年の調理実習を事例として	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 山口学芸研究	6. 最初と最後の頁 pp.79-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Akio Abe, Yoshihiro Nigo, Christin Cook	4. 巻 VOLUME 2
2. 論文標題 A Case Study on CLIL with Art and English in a Japanese Public School to Second Grade Students: An Example of "Printmaking"	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ASIAN JOURNAL OF CONTENT AND LANGUAGE INTEGRATED LEARNING	6. 最初と最後の頁 pp.1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 二五義博	4. 巻 第14号
2. 論文標題 韓国の小学校英語教育が日本へ示唆すること 公立小学校中学年の授業分析を中心として	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 山口学芸研究	6. 最初と最後の頁 pp.77-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 二五義博	4. 巻 第51号
2. 論文標題 図画工作を活用した小学校CLILの可能性について－イタリアの事例を中心として－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中部地区英語教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 pp.219-224
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二五義博	4. 巻 vol. 22
2. 論文標題 明治時代と現代の小学校英語教科書に関する比較研究－CLILの視点を中心として－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JES (小学校英語教育学会) Journal	6. 最初と最後の頁 pp.166-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二五義博、富岡宏健	4. 巻 No.39
2. 論文標題 小学校における体育CLILのあり方について 中学年の体づくり運動を事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本児童英語教育学会 (JASTEC) 研究紀要	6. 最初と最後の頁 pp.191-207
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二五義博	4. 巻 No.51
2. 論文標題 CLILの思考を重視した小学校6年生の英語科授業 歴史上の人物の内容を活用して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国地区英語教育学会誌	6. 最初と最後の頁 pp.79-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二五義博	4. 巻 No.21
2. 論文標題 日本の過去に目を向けた小学校英語教育 CLILは明治時代や昭和初期の時代にもあった？	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JES (小学校英語教育学会) Journal	6. 最初と最後の頁 pp.159-174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二五義博	4. 巻 No.50
2. 論文標題 実技教科を活用した小学校CLIL の利点と課題について イタリアにおけるCLIL 授業例の分析・考察から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国地区英語教育学会誌	6. 最初と最後の頁 pp.117-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshihiro NIGO	4. 巻 Special issue 2
2. 論文標題 CLIL of Physical Education and English in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Journal of the Japan CLIL Pedagogy Association (J-CLIL)	6. 最初と最後の頁 pp.160-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相川真佐夫・植松茂男・岡戸浩子・高坂京子・二五義博	4. 巻 第22号
2. 論文標題 国際的視点からみた日本の外国語教育 言語文化的環境, 教育政策の問題を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JACET関西支部紀要	6. 最初と最後の頁 pp.124-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二五義博	4. 巻 No.49
2. 論文標題 地域を題材とした小中一貫の英語学習に関する事例研究 CLIL の4C の視点より	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国地区英語教育学会研究紀要	6. 最初と最後の頁 pp.65-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshihiro Nigo	4. 巻 Special issue
2. 論文標題 CLIL in a Japanese Elementary School: An Exploration of History	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Journal of the Japan CLIL Pedagogy Association (J-CLIL)	6. 最初と最後の頁 pp.114-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計39件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 フィンランドのCLIL授業の検討と日本の小学校英語教育への示唆 個性を生かす視点を中心として
3. 学会等名 第23回小学校英語教育学会近畿・京都大会（京都教育大学）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 実技教科を生かしたCLILの実践報告 小学校高学年における家庭科の事例
3. 学会等名 第48回全国英語教育学会・香川研究大会（香川大学）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 二五義博、杉谷眞佐子、米崎里、大場智美、松浦京子
2. 発表標題 ヨーロッパの言語教育政策 脱EUのイギリスとEU4 か国から日本の外国語教育への多角的な示唆
3. 学会等名 JACET第62回国際大会（明治大学）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 阿部聡生、二五義博、Christin Cook、門脇卓人
2. 発表標題 小学校でのクラシックギタリストの講師による音楽・外国語のCLIL実践報告 キャリア教育・国際理解教育の視点も盛り込んで
3. 学会等名 日本CLIL教育学会 第6回大会（早稲田大学）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 これからの教科横断的な小学校英語教育は過去の日本のCLILを手本とすべき理由
3. 学会等名 JAAL in JACET 第6回学術交流集会（お茶の水女子大学）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 オーストリアのCLILから学ぶーグラーツ学校訪問の授業観察よりー
3. 学会等名 日本CLIL教育学会 中国支部第2回研究大会（叡啓大学）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 日本の戦前にもあったCLILについて
3. 学会等名 日本CLIL教育学会 2月例会（上智大学）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 日本におけるCLIL的な英語教育論の歴史的考察
3. 学会等名 言語教育エキスポ2024(中央大学)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 他教科内容を生かす戦前と現代の小学校英語の比較考察
3. 学会等名 第38回日本英語教育史学会・全国大会(オンライン)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 阿部聡生、二五 義博、梅木 璃子
2. 発表標題 英語を専門としない小学校教員との 英語科と図画工作科のCLIL授業の 探究的实践 —現職教員による半構造化面接の結果から—
3. 学会等名 第53回中国地区英語教育学会(オンライン)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 CLILは日本が起源であることの仮説検証
3. 学会等名 2022年度 JACET 中国・四国支部 春季研究大会(オンライン)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 阿部聡生、二五義博
2. 発表標題 小学校低学年での図画工作 CLIL と外国語活動との接続について 版画「いっばいうつして」を事例として
3. 学会等名 第22回小学校英語教育学会四国・徳島大会（オンライン）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 二五義博、阿部聡生
2. 発表標題 小学校における図画工作CLILの可能性
3. 学会等名 日本CLIL教育学会 中国支部発足式・研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 20世紀初頭の日本におけるCLIL教育論と実践の検討
3. 学会等名 日本CLIL教育学会 第5回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 二五義博、高坂京子、大場智美
2. 発表標題 海外の外国語教育からの示唆 オランダ・イタリア・イギリスの調査に基づいて
3. 学会等名 第5回JAAL in JACET（日本応用言語学会）学術交流集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 CLILの過去
3. 学会等名 日本CLIL教育学会 中国支部第1回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 フィンランドの初等・中等教育機関におけるCLIL授業から学ぶ
3. 学会等名 JACET関西「海外の外国語教育」研究会 2022年度第3回例会（オンライン）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 二五義博、米崎里、高坂京子、山川智子
2. 発表標題 海外における小・中・高・大の連携 フィンランド・オランダ・ドイツ・オーストリアの事例より
3. 学会等名 JACET第4回ジョイントセミナー（第49回サマーセミナー & 第10回英語教育セミナー）（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 戦前日本の英語教育における教科横断的要素（CLIL）について
3. 学会等名 第37回日本英語教育史学会・全国大会（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 オランダの初等・中等教育機関におけるCLIL授業から学ぶ
3. 学会等名 第52回中国地区英語教育学会（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 図画工作を活用した小学校CLILの可能性について イタリアの事例を中心として
3. 学会等名 第46回全国英語教育学会・長野研究大会（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 明治時代と現代の小学校英語教科書に関する比較研究 CLILの視点を中心として
3. 学会等名 第21回小学校英語教育学会関東・埼玉大会（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 二五義博、古賀悠里江
2. 発表標題 小学校における家庭科CLILのあり方について 高学年の調理実習を事例として
3. 学会等名 第41回日本児童英語教育学会秋季研究大会（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 日本の小学校英語教科書におけるCLILの分析 過去から現在、そして未来へ
3. 学会等名 言語教育エキスポ2022 (オンライン)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 二五義博、富岡宏健
2. 発表標題 小学校中学年における体育CLILの実践 体育の授業での英語使用の可能性について
3. 学会等名 第21回日本CLIL教育学会例会 (オンライン)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 日本の過去に目を向けた小学校英語教育(2) CLILは昭和初期の時代にもあった?
3. 学会等名 第20回小学校英語教育学会中部・岐阜大会 (オンライン)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 110年前の日本のCLIL実践から学ぶ 明治時代の小学校英語教科書の分析より
3. 学会等名 第3回日本CLIL教育学会東北支部大会 (オンライン) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 80年前の日本のCLIL実践から学ぶ 戦前の小学校英語教科書の分析より
3. 学会等名 言語教育エキスポ2021 (オンライン)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 明治時代の他教科内容を生かす小学校英語教育
3. 学会等名 第35回日本英語教育史学会全国大会 (神奈川大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 二五義博、富岡宏健
2. 発表標題 小学校4年生の体育授業におけるCLILの実践 - 英語を使用した「体づくり運動」を事例として -
3. 学会等名 令和元年度JACET中国・四国支部春季研究大会 (就実大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshihiro NIGO
2. 発表標題 CLIL of Physical Education and English in Japan
3. 学会等名 The 17th Asia TEFL (Bangkok, Thailand) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 日本の過去に目を向けた小学校英語教育 CLILは明治時代にもあった？
3. 学会等名 第19回小学校英語教育学会北海道大会（北海道科学大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 実技教科を活用した小学校CLILの利点と課題について
3. 学会等名 全国英語教育学会第45回弘前研究大会（弘前大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 相川真佐夫・植松茂男・岡戸浩子・高坂京子・二五義博
2. 発表標題 国際的視点からみた日本の外国語教育 言語文化的環境，教育政策の問題を中心に
3. 学会等名 第58回大学英語教育学会(JACET) 国際大会（名古屋工業大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 二五義博、富岡宏健
2. 発表標題 小学校における体育CLILのあり方について 中学年の体づくり運動を事例として
3. 学会等名 第39回日本児童英語教育学会秋季研究大会（大阪成蹊大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 地域を題材とした小中一貫の英語学習に関する事例研究 CLIL の4C の視点より
3. 学会等名 第49回中国地区英語教育学会山口大会（山口大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Rie ADACHI & Yoshihiro NIGO
2. 発表標題 The Problems and Expectations of Spreading CLIL in Japan
3. 学会等名 The 16th Asia TEFL (Macau, China) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 二五義博
2. 発表標題 図画工作の視点を取り入れた小学校英語教育の考察 イタリアのCLIL授業観察と日本での授業実践より
3. 学会等名 第18回小学校英語教育学会長崎大会（長崎大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西原美幸、二五義博
2. 発表標題 小学校中学年における社会科内容との統合を指向したCLIL型授業の開発
3. 学会等名 第46回日本児童英語教育学会中国四国支部秋季研究大会（山口県セミナーパーク）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------